

闇を彩る 光の乱舞



「ホタルの里」を地域で作り・守る —福島市上鳥渡地区の取り組み—

福島市上鳥渡地区を流れる新田茂田川の支流「旧茂田川」は、明治16年からの記録が残る農業用の水路です。平成15年、童謡「春の小川」を思わせる風景を子どもたちのために残したいと地元有志が水路の一部を整備しました。同21年には、周辺をホタルが飛び舞う地域に戻そうと新田茂田川ホタルの里保存会(以下、保存会)を結成し、昨年からはホタル鑑賞会を開催するまでになりました。同地区の取り組みと夢を、保存会会長の齋藤好英さんに伺いました。

平成26年6月に開催されたホタル放流鑑賞会。光っては消え、消えては光る幻想的な風景



(長時間露光により撮影)

◀小川には水の清らかな証の梅花藻(バイカモ) 俗称キンギョ草が生育する



新田茂田川ホタルの里保存会
会長
さいとう 好英 さん

旧茂田川周辺をホタルの里に 昨年からは観賞会を開催

11年前に整備され「昔の茂田川」と名付けられた区間200m。土地の境界を示す雑木林に寄り添うように曲線を描きながら流れています。

流れの途中には小さな堰やよどみもあり、春は近くの藪でウグイスがさえずり、夏は沢の音と木漏れ日のかサルスベリが咲き誇り、オニヤンマが悠々と飛び回ります。保存会では、5年前からホタルの幼虫と餌になるカワニナを飼育しています。ホタルの放流と鑑賞を公開するようにしたのは昨年からです。「ホタルを見ることで、



▲ホタルに夢中な子どもたち

地域で暮らす皆さんの癒しや活力になればと思いい鑑賞会を開いています。子どもたちも楽しみにしています」と齋藤さん。今年の鑑賞会は、6月22日から1週間行われ、地元



▲8月には川沿いのサルスベリがピンク色の花を咲かせます

日中の旧茂田川は、涼やかな沢の音と溢れる緑が楽しめる癒しのスポット。

親子など約40人が参加しました。保存会の皆さんが飼育したゲンジボタル約50匹が、小川の茂み付近からフワリフワリと飛び立ち、光の乱舞が始まると「わあっ」と歓声が上がりました。「ゲンジボタルは、7月上旬まで。その後、ヘイケボタルも楽しめます。昨年は期間中に800人。今年は1,150人が訪れました。たくさんの方に喜んでいただけたらいいな」と齋藤さん。草刈りもなんのそ

少しずつ広がりを見せ始めた 福島市西部のホタルスポット

町会と水利組合と保存会が協力しながらホタルの里づくりを進めてきた上鳥渡地区。齋藤さんは、「農村の原風景は、人の心の故郷。先輩方が引き継ぎ残してきた農村の原風景を守っていくのが私たちの役目だと思っています」と話します。夢は、旧茂田川の上流と下流合わせて約1kmにわたってホタルを飛ばすこと。「うれしいことに近隣の地域でもホタルが飛ぶ環境を整えようという気運が高まっています。ホタルの里巡りを楽しんでもいいと思います。夢は膨らむ一方です」とほほ笑みます。少しずつ広がりを見せている福島市西部のホタルスポット。懐かしい農村風景を皆さんの心の故郷にしてはいかがでしょうか。

